

# 「これからの社会貢献活動支援検討会」ヒアリング意見書

平成28年6月8日/NPO法人ボランタリーネイバーズ 大西光夫

【注】社会貢献活動、民間非営利活動（NPO）、民間公益活動、市民公益活動などの表現があるが、ここでは同義扱い。

## 1、はじめに。－立場・視点

- ・モリコロ基金サポート組織の立場と「中間支援組織」の立場で。
- ・地域課題社会課題を解決するため、民間公益活動を育てる、との立場で。
- ・間もなくモリコロ基金が終了することから、資金問題を軸に話したい。

## 2、経過振り返り。－「民間公益セクター育て」の必要性、再認識を。

一少子高齢化、赤字財政、右肩下がり時代を迎えての社会の動向だった。

- ・フィランソロピー元年（経団連1%クラブ発足/1990年）
- ・「市民公益活動基盤整備に関する調査研究」（NIRA/1994年）
- ・阪神淡路大震災（ボランティア元年、NPO法誕生へ/1995年）
- ・「台頭する非営利セクター」（NPOの国際比較調査、R・サラモン/1996）

	日本	アメリカ	イギリス
雇用数（万人）	144.0	712.0	94.5
NPO運営費（10億ドル）	94.9	340.9	46.6
GDP（10億ドル）	2943.0	5392.0	975.0
GDP比率	3.2%	6.3%	4.8%
NPO収入比率（政府）	38.3	29.2	39.8
同収入比率（民間寄付）	1.3	18.5	12.1
同収入比率（会費・事業収入）	60.4	52.3	48.2

★大変衝撃的だった。日本の「NPOセクター育て」が意識された。

\*円換算；日本の民間寄付6000億円、アメリカ26兆円。

\*当時、団体数；日本27万（宗教法人18万含む）、アメリカ130万、イギリス50万。

### 【愛知県での動きも活発でした】

- ・「ボランティア活動に関する国際フォーラム」（NPO法制度議論、1995年/250人）
- ・「イギリス民間非営利セクター調査団」（1996年～）。将来イメージ・長い目が持てた。
  - ・チャリティーズ・エイド・ファウンデーション（10数万人の個人、2000の企業から資金を集め年間200億円助成）
  - ・全英ボランティア団体協議会（NCVO/6000～7000団体加盟、1919年設立）
  - ・公益ユース法（チャリティ法の起源。公益性を示唆、1601年制定）

### ●NPO法ができた。（1998年/公益法人の一つとして誕生）

- ・「…もって公益の増進に寄与する」（法第1条）。一民間公益活動を育てると理解。
- ・「市民の自発性、先駆性、柔軟性、組織力、パートナーシップ（協働）」がキーワード。

### ●自然の叡智「愛・地球博」成功・モリコロ基金誕生（2005-07年）

- ・官民共同、市民参加（ボランティア・NPO）が評価。成果を広げる⇒モリコロ基金誕生

### ●「新しい公」（麻生政権）・「新しい公共」（民主党政権）・「共助社会」（安倍政権）提唱。

- ・これらの実現のためには、「民間公益活動を育てざるを得ない」と考える。

## 3、モリコロ基金の評価

・基金運営委員会によって、「モリコロ基金の成果調査」（2015.6）、「成果を点検するフォーラム」（2015.9.27）が実施された。

- ・地域や社会の課題解決のための事業が実践されている。
- ・団体が成長し、事業の継続性が生まれている。
- ・取組みが行政の施策や制度に取り入れられ、地域や社会へ波及している。

### 【私見】

- ・NPOは、日々生起する地域の課題（解決）に取り組んでいる。開拓者、チャレンジャー。NPOの活動を見ると地域や社会の課題がわかる。
- ・「サービス対価がとれない事業が多い」、「先駆的取組みをするには先行投資資金が必要」。このお金づくりが大変。寄付や助成金の意味がある。
- ・事業実績をつくり、評価を高め、共感を呼び、人と資金が集まる。⇒実績づくりが第一歩。
- ・市町村や各種団体の助成制度を誘発、連動し、総合的（ステップアップ）支援を形成。

## 4、新基金づくり

### ●「新基金像を検討するシンポジウム」（2016.1.30）を開催した。今後も研究する。

- ・基調講演で、「大阪コミュニティ財団（1991年設立）」の経験を教わった。
  - ・マンション型財団（複数の基金の連合体）、寄付者の意思を活かす。寄付者と活動団体をつなぐ。
- ・新基金づくりについての指摘。
  - 「万博の成果を記憶する必要性」「地域コミュニティ形成支援の必要性」「リニア開通を見据えた中部圏づくりの必要性」「南海トラフ巨大地震対策の必要性（国土強靱化）」など。

### ●「イメージ案」（仮称：中部圏地域創生ファンド）

・・・別紙

#### ・2階建て構造。

- ・1階部分は基礎・基盤で、2階部分（フロー）を誘発する役割。2階部分づくりは時間がかかる。
- ・何より「信用ある受け皿」が大事。行政（税金）はフロー出資ではなく1階づくり役。
- ・フローは、民間寄付（個人寄付・団体寄付）。他の収入は「基金運用」「事業収入」など。
- ・助成は、「営利部門」と「非営利部門」。「非営利部門」がモリコロ基金の継承発展部門。
- ・地域全体を動かす基金。大きな仕組み。個別基金は既にたくさんある。

### ●「賛同者」（現在）

・・・別紙

- ・新基金の設立に賛同する署名活動を展開中（2015.10～）。今後も続ける。

### 【私見】

- ・事業（団体）づくりの「軸」は人材と資金。お金を作って、事業を育て、その中で、人づくり、団体育てをする。情報やノウハウや知識・技術を提供する。
- ・助成財団は、地域の未来（の課題）を見て投資する。未来を示す（つくる）役割。
- ・資源（資金）を中部圏で集めて中部圏に投入する。東京、関西に資源を持っていかれている。

≪付記≫コミュニティ財団とは、本来は、50万人規模の地域を基盤とし地域コミュニティを支えるもの。大阪コミュニティ財団は、コミュニティ財団の名称を使っているが、広域的（全国規模）。

以上